

# 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 東北大学

## 目 的

本学の研究者が国際社会でリーダーシップを発揮してトップクラスの研究を牽引し、また社会を変革するイノベーションの先駆者となるために、東北大学を中核とした“**人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の国際共同体**”の形成を目指す。

### 強化方針Ⅰ 研究戦略の明確化

URAを充実、本学研究力を分析し研究戦略を立案支援、ベンチマーク大学を選定。

### Ⅱ 国際共同体の形成

訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」を設置、運営。

### Ⅲ 将来のグローバル・リーダー育成

若手研究者が中長期海外の研究機関へ滞在、国際共同研究を格段に増加。

### Ⅳ 国際水準キャンパスの整備、事務の国際化

訪問滞在研究者の支援を行う「リサーチ・レセプションセンター」等を整備し、事務国際化を加速。

## これまでの実績・進捗状況

### 研究戦略の明確化

URAを充実させ(29名配置)、新規データベースによる本学の**研究分析**を行い、**「ベンチマーク大学」**を国外から6校、選定。  
→ベンチマーク大学との比較による調査・分析により、大学のポテンシャルを効率よく方向付け、統合力としている。  
・大学本部内に、国内外の研究動向を調査・議論するユニットを構築。**国内外の競争的資金獲得等強化**に向け、情報発信・学内支援・啓蒙活動を強化。  
・**世界大学ランキング対策**への寄与。

### 国際共同体の形成

訪問滞在型研究センター「**東北大学知のフォーラム**」を設置(平成25年度)  
・国際公募により今までに7プログラムを計画、実施。平成26年度参加者数、のべ**942名**。  
・**ノーベル賞受賞者10名、フィールズ賞受賞者1名**の招聘を実施(予定含む)。  
→世界トップクラス研究者が滞在、若手研究者と共に白熱した議論を展開。  
・ノーベル賞級研究者を対象とした人事制度、「**特別招聘プロフェッサー制度**」等新設。  
「**東北大学高等研究機構**」を設置(平成26年度)  
・**世界最高水準の研究者が集結する優れた国際的研究環境**等を構築し、新しい学術分野を創出することを目的とする。→学内リソースの結集・最適化も視野。

### 将来のグローバル・リーダー育成

若手リーダー研究者海外派遣プログラム(28名派遣)により、  
・国際共同研究・国際共著論文増加の推進、海外ネットワーク構築の推進。  
若手研究者向け英語プレゼン事業「**Falling Walls Lab Sendai**」を開催  
・ベルリンでの本線を前にした東アジア唯一の予選会であり、他大学からも複数名参加。  
URA・学内教員による**大型研究プロジェクト獲得支援**  
・科研費等応募申請に係る支援体制を構築、「**挑戦すること**」を支援。  
**本学学際科学フロンティア研究所**における若手研究者国際公募  
・3年間で、46名採用(スーパー助教等)。異分野融合による学術研究を開拓・推進。

### 国際水準キャンパスの整備、事務の国際化

訪問滞在研究者の支援を行う「**リサーチ・レセプションセンター**」設置  
・本学AIMR、知のフォーラム、高等研究機構においてサポート実施中。  
→中長期滞在する研究者向け支援体制の、全学的波及を進める。  
**事務職員の英語力の向上、事務手続きの英語化**  
・ソドニー大学等への海外研修、沖縄科学技術大学院大学へのOJT研修実施。  
・事務手続き様式の英語版、英文メール・レター文例集をそれぞれ作成。  
・**全事務職員のTOEIC受験**(平成26年度から3年以内)を、原則義務化。

## 今後の課題と展望

**課題**

- ① ベンチマーク大学選定後の、本学の研究力強化戦略の明確化。
- ② 国際共同体の形成を推進することを目的とした、「海外リサーチ・ステーション」の設置、若手研究者等の派遣。
- ③ 高等研究機構の拡充。
- ④ URAの人事制度整備。

**展望**

- ① 本年9月に学内へ研究分析DBを公開し、全学的議論を展開する。  
→**トップ1%論文、トップ10%論文など質の高い論文を増加させる。**
- ② ベンチマーク大学等への「**海外リサーチ・ステーション**」設置を推進する。
- ③ リサーチ・レセプションセンターを拡充し、国際的研究環境・支援体制を高等研究機構をはじめ、**全学的に波及させる。**
- ④ **平成27年度中にURA人事労務関係の条件を確立する。**

## フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

### 全体を通した所見

○ 研究推進本部の下、彼我の研究力分析が的確になされ、ベンチマーク大学を国外から6校、戦略的海外連携校12校を選定し、世界に開かれた知の国際共同体の形成に向け、ダイナミックに船出している。また、極めて具体的に達成目標を数値で示し、その達成に向けて制度の構築・整備が順調に進められていることが確認された。

### 特に優れた点

○ 訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」が具現化し、その屋台骨をURAセンターが支えることにより、国際公募も含め、若手研究者への効果的なアピールができています。

○ URAの経験知を海外を含む他学と共有し、URA全体のスキル向上と職域確立に役立てることを目指している。

### 期待する点

○ URAの重点化スキルの取りまとめ、URA人事労務制度の整備について早期の実現を期待する。